

放射線科救急撮影の現況

放射線科技師長 堀 勇 二

平成4年6月に改築移転してから4年6ヶ月が経過したが、総撮影人数、件数ともに平成6年度をピークとして横這い状態となっている。このことに関しては当初から予想はしていたが少し気になるところである。しかしながら、休日祝日での撮影、平日夜間での撮影は年々増加の傾向にあり、平成6年、7年、8年の3年間を調査してみた。

表1表2から分かるように6年度比撮影人数↑14.1%↑24.2%件数↑20.9%、↑30.5%、呼び出し回数↑1.3%↑11.3%となっている。呼び出

し回数では微増であるが、撮影人数、件数が大幅に増えてきている。

表3から、平日では人数↑30.7%、↑33.3%、件数↑42.5%、↑47.8%休日では人数↑7.5%、↑20.7%、件数↑12.4%、↑23.8%と平日が大幅に増えてきている。平日時間外撮影人数では外来↑15.9%↑24%であるのに対して病棟撮影人数が↑77%、↑62.2%と大幅増になっている。

表4では部位別件数、CT件数を表しているが、全件数に対して胸部腹部が6年度57.1%、7年度

表1. 救急撮影人数・件数

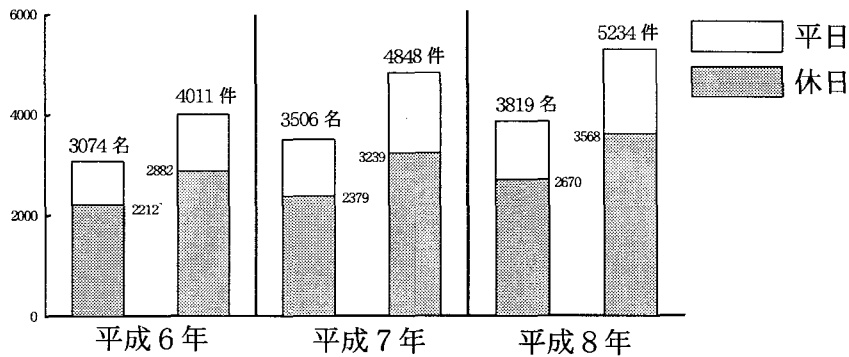
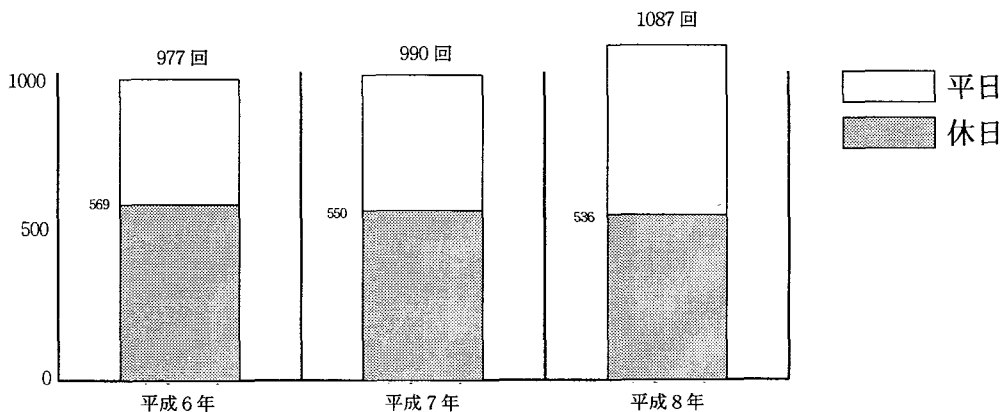


表2. 休日及び平日呼び出し回数



57.3%, 8年度58.2%と約6割を占めCT(頭部)では6年度9.7%, 7年度9.3%, 8年度10.7%となっている。

その他骨部、頭部、脊椎で6年度31%, 7年度31%, 8年度28%となっている。

表5は全体に占める割合は少ないが緊急かつ時間のかかる検査である。6年度から見るとアンギオ↑54%, ↑83%特殊検査では3倍以上となっている。アンギオでは75%~100%がシネ、頭部検査である。

表6、表7は平日夜間休日撮影での1日当たりの人数件数を表しているが、6年度比平日人数↑

31.4%, ↑34.3%件数↑41.6%, ↑48.1%, 休日人数↑8.6%, ↑20.4%, 件数↑14%, ↑24%と年々増加してきている。

これらの表からも分かるように年間の撮影人数件数は変わらないにもかかわらず、時間外である平日夜間、休日撮影の割合が平成6年では6.5%であったのが、平成8年では8%と年々多くなってきている。又救急外来と病棟を見ると、平日では救急外来が多く休日では病棟撮影の方が多くなっているものの全平均で見ると救急外来が少々多くなっている。

このようなデータから放射線科として推定を

表3. 休日 平日での救急外来及び病棟撮影人数・件数

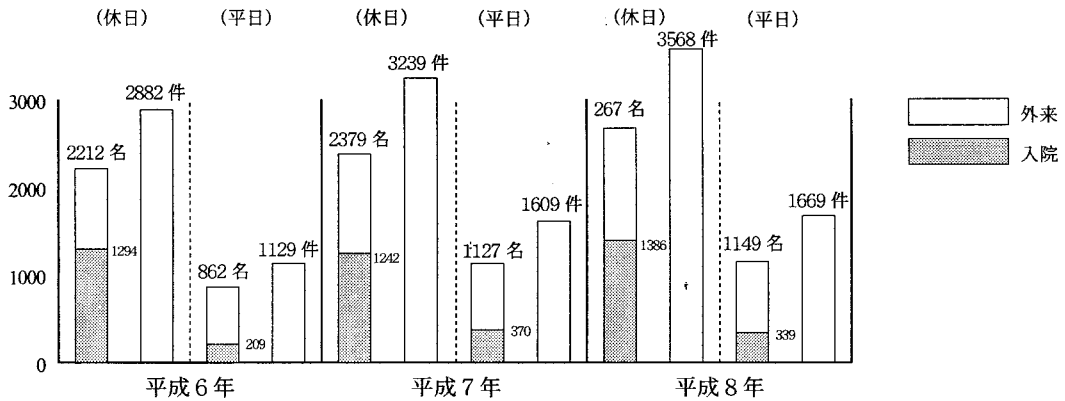
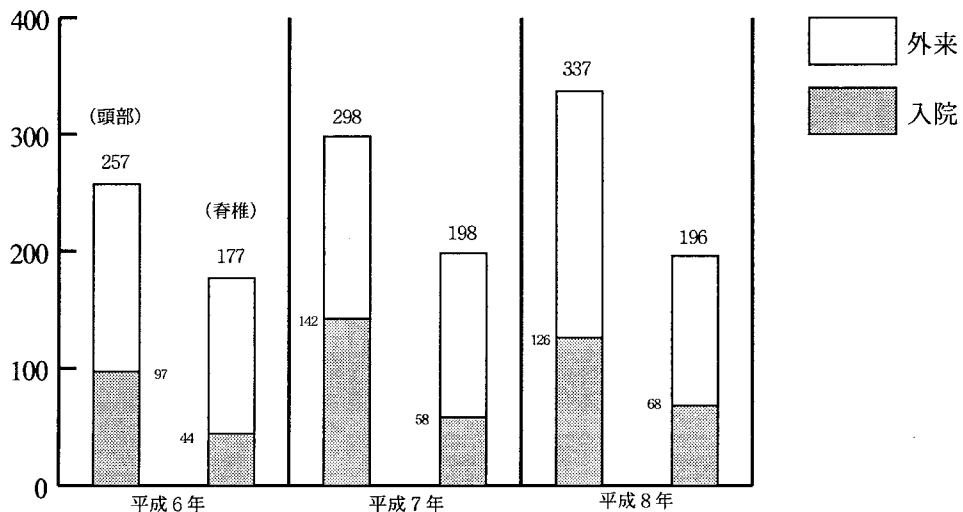
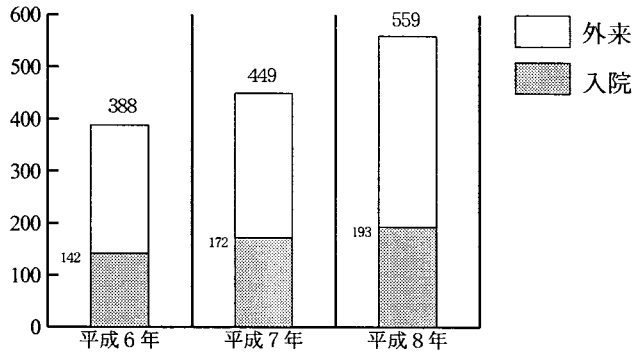


表4. 部位別件数・CT件数

(頭部・脊椎)



(頭部CT)



(胸部・腹部・骨その他)

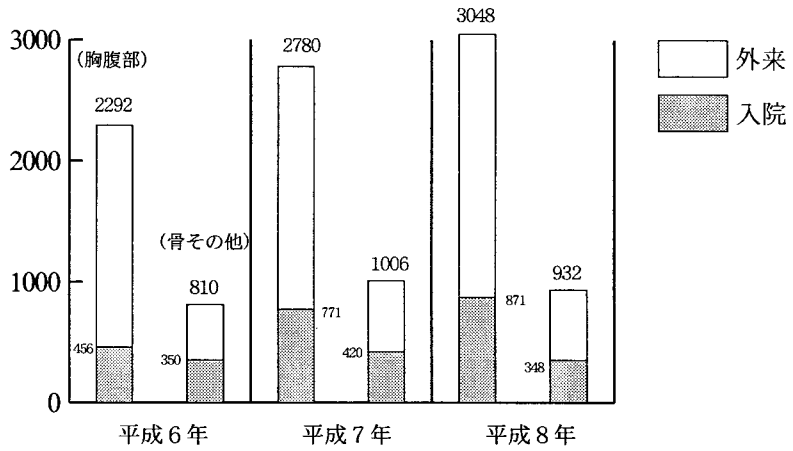
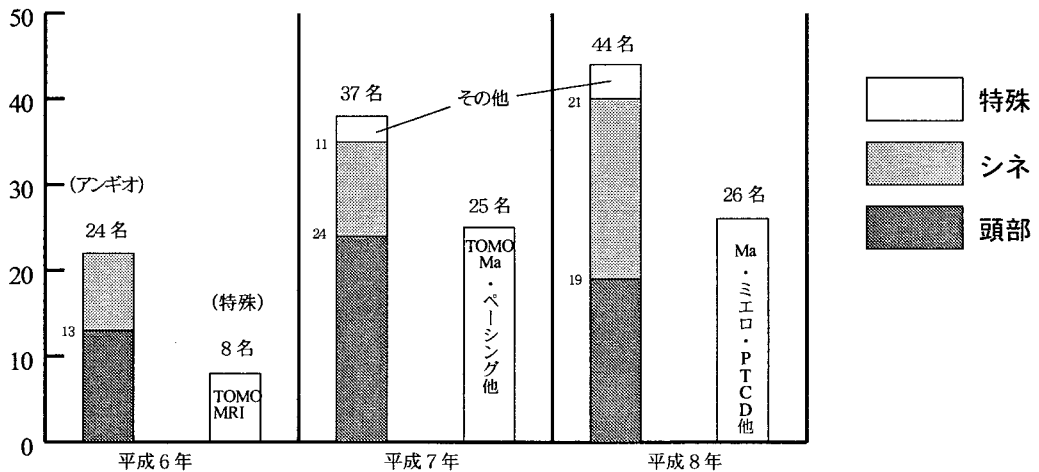


表5. 救急アンギオ、特殊撮影人数



してみると

救急外来では

1. 交通事故による1名当たりの撮影件数の増加
 2. 救急車による搬入の増加
 3. 夜間来院患者の撮影件数の増加
- 等が上げられる。

病棟では

1. 休日での手術後経過撮影の増加
(10月～12月の3ヶ月を見ても70%がポータブル撮影になっている。)
2. CT検査の増加
3. 週休二日制によるしわよせ

等が上げられる。

その他色々な原因があると思われるが休日での病棟撮影の比重が大きくなっているところが少々気がかりである。

これからも増えていくことになるのかどうか追跡をしなければならないが、平日はともかくも、休日での対応は1名で行っている状況からこれ以上の人数件数の増加は大変厳しいものがある。特に休日では外来より入院患者の撮影(ポータブル撮影)が多いので、各科の先生方に精査をして頂きながら、救急患者の対応をしていきたい。

表6. 平日夜間撮影1日当たりの人数・件数

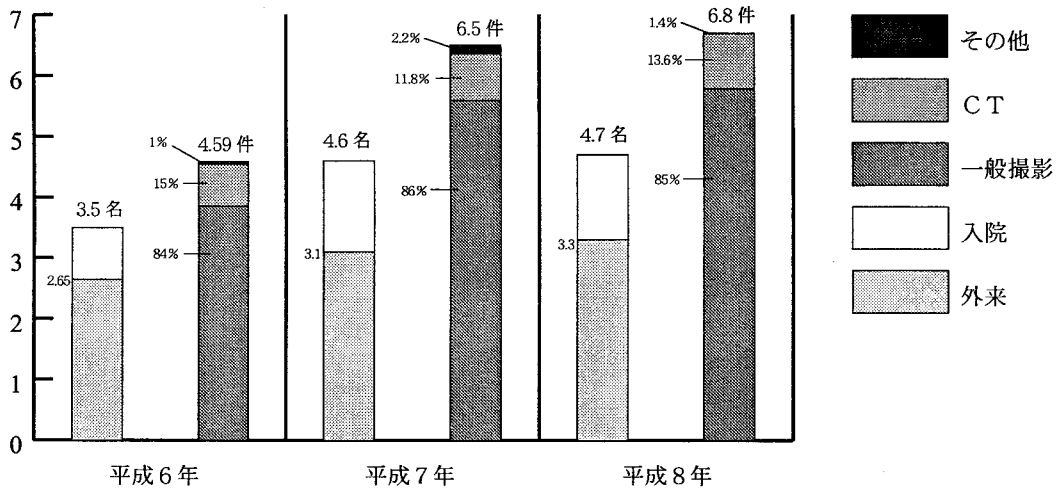


表7. 休日撮影1日当たりの人数・件数

